

二酸化窒素の測定結果（平成29年度）

大気中の窒素酸化物は、物の燃焼に伴い空気中の窒素が酸化されてできるものと、燃料中に含まれている窒素分が酸化されてできるものがあります。発生源としては、固定発生源である工場・事業場のばい煙発生施設及び移動発生源である自動車などがあります。

平成29年度に、二酸化窒素について18測定局（自動車排出ガス測定局4局を含む。）で測定した結果は下表のとおりであり、平成28年度と比較すると、横ばい傾向にあります。

年平均値は、土岐自動車排出ガス測定局の0.017ppmが最も高く、一般環境測定局においては、岐阜南部測定局、大垣中央測定局の0.010ppmが最も高い状況にありました。

なお、長期的評価に基づく環境基準はすべての測定局で達成しました。

地域	測定局名	有効測定日数 (日)	測定時間 (時間)	年平均値 (ppm)	日平均値が0.06ppmを超えた日数とその割合		日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数とその割合		1時間値の最高値 (ppm)	日平均値の年間98%値 (ppm)	長期的評価の適否 適○否×	平成28年度	
					日	%	日	%				年平均値 (ppm)	長期的評価の適否
岐阜	岐阜中央	361	8557	0.008	0	0.0	0	0.000	0.055	0.015	○	0.008	○
	岐阜南部	315	7449	0.010	0	0.0	0	0.000	0.049	0.022	○	0.010	○
	岐阜北部	365	8624	0.006	0	0.0	0	0.000	0.031	0.011	○	0.006	○
	各務原	362	8643	0.007	0	0.0	0	0.000	0.035	0.014	○	0.007	○
	本巣	363	8658	0.008	0	0.0	0	0.000	0.053	0.015	○	0.007	○
	平均			0.008									0.008
西濃・羽島	羽島	363	8666	0.009	0	0.0	0	0.000	0.053	0.019	○	0.010	○
	大垣中央	363	8665	0.010	0	0.0	0	0.000	0.035	0.018	○	0.010	○
	大垣南部	363	8668	0.009	0	0.0	0	0.000	0.042	0.017	○	0.009	○
	平均			0.009								0.010	
可茂	美濃加茂	363	8662	0.006	0	0.0	0	0.000	0.036	0.012	○	0.007	○
東濃西部	笠原	362	8650	0.007	0	0.0	0	0.000	0.036	0.016	○	0.009	非適用
恵那・中津川	中津川	315	7552	0.008	0	0.0	0	0.000	0.039	0.017	○	0.009	○
	下呂	363	8661	0.003	0	0.0	0	0.000	0.023	0.008	○		
飛騨	高山	363	8658	0.007	0	0.0	0	0.000	0.048	0.018	○	0.007	○
	乗鞍	345	8270	0.001	0	0.0	0	0.000	0.013	0.002	非適用	0.001	非適用
	県平均			0.007								0.008	
	岐阜明德自排	360	8545	0.009	0	0.0	0	0.000	0.054	0.016	○	0.010	○
	大垣自排	320	7655	0.011	0	0.0	0	0.000	0.054	0.021	○	0.013	非適用
	可児自排	363	8671	0.012	0	0.0	0	0.000	0.040	0.021	○	0.013	○
	土岐自排	323	7783	0.017	0	0.0	0	0.000	0.062	0.029	○	0.017	○

備考) 1 県環境管理課調べ

2 環境基準の長期的評価に適合しているとは、測定時間が年間6,000時間以上あり、日平均値の年間98%値が0.04ppm~0.06ppmゾーン内もしくはゾーン以下であることを示す。

3 県平均に、乗鞍測定局、自動車排出ガス測定局は含まない。